

鳥取県立中央病院経営強化プラン骨子たたき台 (令和5年度～令和9年度)

理念：安全で質の高い医療を提供するとともに、患者に優しく、働きやすく、地域に必要な、三方良しの病院を目指します。

1. 東部医療圏における当院の機能と役割

- 東部医療圏の基幹病院として高度先進医療を提供
(がん、心筋梗塞、脳卒中、救急、周産期、小児、災害医療 + 新興感染症)
- 大学病院本院に準じる高い診療機能を持つ病院として、DPC 特定病院群の指定を維持
- 当院のメディカルスタッフを充実させ、その専門性を高めるとともに、圏域全体の医療の質の向上に資するため、中小規模の公立病院への派遣や支援を積極的に行うなど連携を強化
- 患者に寄り添う意識を醸成し、職員が働きやすくなる環境の実現に向けての改革を推進
- コストや経営に関する職員の意識を高め、自らが率先して改善に取り組む風土・環境を整備すると共に、種々のベンチマークを用いた同規模病院との比較や分析を通じた経営改革を推進

2. 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組

- 鳥取大学との連携・協力の下、感染症専門医等の専門人材を確保
- 圏域内の医療施設や社会福祉施設に対する助言や防疫等に係る県及び保健所の取組も積極的に支援

3. 医療人材の確保

- 圏域内の内科医を充実させるため、令和6年度から「内科専門研修プログラム」を確立して病院総合診療医を養成し、将来的には中小規模の病院に専門医を派遣しうる体制を整備
- 本年5月に開設したシミュレーションセンターを活用し、圏域内の人材育成に貢献
- タスクシフトやIT化による業務の効率化を推進すると共に、コストとのバランスを考慮しつつ、外部委託の拡大も検討

4. 中小規模の公立病院への医師・看護師等の派遣や支援方針

- 公立病院以外の病院も含めて、派遣の要請があれば、可能な限り対応
- 圏域内の内科医を充実させるため、令和6年度から「内科専門研修プログラム」を確立して病院総合診療医を養成し、将来的には中小規模の病院に専門医を派遣しうる体制を整備(再掲)

5. 医師の働き方改革への対応

- タスクシフトの推進等により、必要な医療の質・量の確保と時間外労働縮減の双方を両立
- 時間外労働の多い医師の労務管理を適切に行うとともに、面接指導医による面接指導を受けやすい体制を確保し、医師の健康状態を適時に把握

6. 医療DXへの対応

- オンライン資格確認の機能拡張及び電子カルテ情報の標準化等、国の医療政策に対応

7. 情報セキュリティの取組

- 情報セキュリティに対する脅威に対し、実情把握・情報収集に努め、必要に応じてシステム改修の早期・適切な対応を目指す

8. 施設・設備の適正管理、ライフサイクルコストの削減

- 大規模修繕の周期を引き延ばすため、小修繕を適宜実施